

雪が降る前に予防対策を！

雪が降る地域で見られる病害、“雪腐病”。予防するには根雪前の対応が必要です。雪が降る前にしっかり予防対策をしておきましょう。

雪腐病（ゆきぐされびょう）は、積雪地域に発生する病気です。“雪腐病”という呼称は5種類の病害（褐色雪腐病・雪腐黒色小粒菌核病・雪腐褐色小粒菌核病・紅色雪腐病・雪腐大粒菌核病）の総称で、地域によって主流となる病害は異なります。北陸では**褐色雪腐病**が主な発生種です。

雪腐病では、雪解け後に植物体が軟腐（なんぶ：腐って溶けたようになる）し変色するといった症状がみられます。またそれ以外にも、小型のパッチが散発するといった症状の出方もあります。

発生時期としては、11月以降から春にかけての積雪がある時期で、気温が-2～5℃あたり（種によって異なる）で発生します。その他、積雪量、積雪下の地温、土壤凍結期間の長さ、



雪腐病のガザニア（3月下旬撮影）

罹病部分が軟腐した様子

地形や土壌条件等によって発生状況や発生する種類が異なってきます。

対策としては、耐病性のある品種の採用、融雪の促進、排水の改良、薬剤散布等が挙げられます。薬剤散布については、根雪前に殺菌剤を2～3回散布しますが、雪腐病は発生状況が地形によっても変わってくるため、発生状況を熟知していれば、局所的な対応をすることも可能です。むやみに全面散布を行わず、できるだけ局所的対応を行うと良いでしょう。

参考：目で見えるゴルフ場の芝草病害（1991）ソフトサイエンス社

褐色雪腐病の特徴

発生条件	<ul style="list-style-type: none">根雪が40日以上つづく湿度の高い重い雪排水不良
発病温度	-1～0℃
症状	<ul style="list-style-type: none">雪解け後にターフが淡褐色または褐色化し、芝草は軟腐する小型のパッチが散発することもある
予防方法	<ul style="list-style-type: none">排水をよくする根雪前に殺菌剤を2～3回散布する
対応のポイント	発生状況は地形によって異なることも多いため、局所的な対応を行う

製品紹介

レキシコン

殺菌効果+根重の増加効果も！



- 有効成分：ピラクロストロピン 5.0%
フルキサピロキサド 4.0%
- 毒性：普通物
- 包装：1kg/袋、6袋入り/ケース

- 幅広い抗菌スペクトラムを有し、優れた予防・治療効果を示します。
- 夏場でもベントグラスへの高い安全性を有します。
- 夏越しのための“根重の増加”効果を最も発揮するためには、根部衰退前の6～7月に2回散布（1ヵ月間隔）することをお勧めします。

作物名	適用病害名	希釈倍数と 使用液量/㎡	使用時期
日本芝	ダラースポット病 カーブラリア葉枯病 葉腐病（ラージパッチ）、炭疽病 立枯病（ゾイシアデクライン）	100倍：100ml/㎡ 200倍：200ml/㎡ 500倍：500ml/㎡	発病前～発病初期
西洋芝 （バミューダグラス）	ピシウム病、ダラースポット病 カーブラリア葉枯病		根雪前 （雪腐小粒菌核病）
西洋芝 （ベントグラス）	葉腐病（ブラウンパッチ） 赤焼病、ピシウム病、炭疽病 ダラースポット病、紅色雪腐病 雪腐小粒菌核病 根重の増加		芝生育期 （根重の増加）
	フェアリーリング病	500倍：500ml/㎡ 1000倍：1L/㎡	

セルカディスフロアブル

有効成分が根部と葉部からすばやく浸透



- 有効成分：フルキサピロキサド 26.5%
- 毒性：普通物
- 包装：500ml/本、10本入り/ケース

- 高い浸透移行性があり、根部・葉部からすばやく浸透します。
- 様々な病害に対して優れた効果と残効性が期待できます。
- 日本芝の総合殺菌剤として使用できます。
- 予防・治療効果があり、散布適期幅が広く使いやすい剤です。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量/㎡	使用時期	
日本芝	葉腐病（ラージパッチ）	400～800倍	200ml	発病初期	
		2000倍	500ml		
	フェアリーリング病	800倍	200ml		
	カーブラリア葉枯病	400倍	100ml		
		2000倍	500ml		
	立枯病（ゾイシアデクライン）	800倍	200ml		発病前～発病初期
	疑似葉腐病（象の足跡）	800倍	200ml		
疑似葉腐病（春はげ症）	800倍	200ml	休眠期前		
	ネクロティックリングスポット病	2000倍	500ml	休眠期前及び萌芽前	
		800倍	200ml		
西洋芝 （ベントグラス）	雪腐小粒菌核病	400倍	100ml	根雪前	
		2000倍	500ml		

取扱い・お問合せは—